

学校経営推進費 事業計画書

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立中央聴覚支援学校
取り組む課題	D 生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上 ・ 支援学校における地域連携と外部への情報の発信
計画名	「つながろう みんなと 飛び出そう、社会へ」

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画 の 中期的目標	<p>子どもたちの学ぶ力の育成とキャリア形成をはかり、変革する社会で生き抜く力を育む。</p> <p>(1) 将来の自己実現をめざしたキャリア教育に取り組み、自主性・社会性を育む。</p> <p>(2) 知的好奇心を刺激し、子どもたちの学びへの意欲の向上を図る。</p>	
事業目標	<p>聴覚支援学校では、授業や行事等において、子どもたちの聴覚障がいの状態に応じた視覚的な情報保障が重要である。本校では、手話での説明に加え、ICT 機器の活用により、文字、音声、画像を統合的に発信し、子どもたちの個々のニーズに合わせて情報を獲得している。(文字情報システムによる緊急時放送や、電子黒板やタブレット端末等を活用した授業・HR 活動等)。</p> <p>そうした中、遠隔コミュニケーションロボットやオンラインを活用することにより、さまざまな進路実態を知り、自らの将来像を描きやすくし、日々の学習意欲の向上につなげたい。また、固定化された学校内だけの活動にとどまらず、オンラインやロボットを通じて他校との交流を深化させる。さらに、オンラインによる合同授業を実施し、初めて関わる子ども達とテーマを決めた意見交流をすることで視野を広げ、物事を多面的、多角的に捉える力を伸ばすとともに、自らの学びを地域社会に情報発信する力を育む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ICT 機器の活用や視覚支援を充実させ、「見てわかる授業」を展開することで、児童・生徒の言語力を高め、表現を豊かにしたり、論理的思考力を高めたりする。 ② 遠隔コミュニケーションロボットを活用し、卒業生の活動に触れたり、さまざまな職場体験を行ったりすることで、自己の将来像を描きやすくし、キャリア発達を支援する。 ③ 継続的してきた学校間交流を発展させ、オンライン等を活用しながら、多くの人と意見交換を行う合同授業を実施し、SDGs などテーマを持った活動に共に取り組み、幅広い仲間とつながる。 ④ 同世代のみの交流にとどまらず、自らの学びを地域や社会に発信し、校内外を越えた豊かなコミュニティを形成する。 	
取組みの概要	整備する 設備・物 品	電子黒板機能付き超単焦点プロジェクター（壁取付式）、kubi テレプレゼンスロボット、アクションカメラ（GoPro）、動画編集ソフト、字幕ソフト、液晶ペンタブレット、ペイントソフト、マグネット式スクリーン、160 インチスクリーン
	取組 内容	前 年 度
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 小・中・高ともオンラインによる学校間交流。 ・ 対面、またはオンラインにて社会で活躍するさまざまな人の話を聞く。(小1回、中7回、高3回) ・ オンライン教育会議や情報教育部による授業づくりの支援。 (G-suite 活用ガイドライン、活用マニュアルの作成、教員向け研修会(3回)、Zoom や Google クラウドルームを活用した遠隔学習の実施)

		<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業づくりのための整備 - 電子黒板付き単焦点プロジェクター増台、タブレット端末の活用。デジタル教科書の購入。 ・学習成果（境界線の学習、SDGs、学校安全活動）を、保護者会、120周年記念式典、文化祭などでプレゼンを行った。
	初年度	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部で ICT 機器の活用を促進し、調べ学習や合同学習での学びを、プレゼン資料や映像化し、HP や行事等で発信する。 ・遠隔コミュニケーションロボットやオンラインを活用して、学校間交流を充実させる。合同授業を行う。 ・聴覚支援学校とテーマを決めた合同授業を行う。意見交換の場を広げる。 ・教職員向け ICT 機器使用のための研修（8月） ・児童・生徒への授業アンケートの分析と情報共有（12月）学校教育自己診断の分析と情報共有（12月） ・プロジェクトチーム1年目の検証、改善に向けての検討、活用方法の収集（3月）
	2年め	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔コミュニケーションロボットを利用し、いろいろな職業の人の話をきく。また実際の職場の様子を見てリアルに体験する。 ・遠隔コミュニケーションロボットやオンラインの活用により、SDGs や学校安全活動などのテーマを決めた交流学习や発表を行う。交流校を広げる。 ・SDGs 講師、企業講師の招聘 ・SDGs に関する地域的な取り組み（児童・生徒の製作物などをHPに掲載） ・教職員向け ICT 活用方法の研修（8月） ・児童・生徒への授業アンケートの分析と情報共有（7、12月）学校教育自己診断の分析と情報共有（12月） ・各学部の教員による授業研究と情報共有（12月） ・プロジェクトチーム2年めの検証、改善に向けての検討、活用方法の収集（3月）
	3年め	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域へ発表の場を広げ、SDGs や防災について共に取り組むコミュニティへと広げる。 ・国内外の学校園と交流会を行う。 ・児童・生徒への授業アンケートの分析と情報共有（7、12月）学校教育自己診断の分析と情報共有（12月） ・公開授業を実施（2月） ・プロジェクトチーム3年めの検証、取り組みをまとめ、冊子、HPなどで外部へ公開（3月）
	取組みの 主担・実 施者	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトチーム 首席、情報教育部長、進路サポート部長、各学部主事、有志 ・実施者 学部でのまとまりを基本し、学年や学部の子どもたちの活動に関わる全ての教職員。
成果の検証方法 と評価指標	初年度	<p>学校教育自己診断、授業アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 児童・生徒記入、保護者記入の「見てわかる授業の満足度」の肯定率を78%以上とする。現75% ② 教職員「ICT機器活用力」の肯定率を70%以上とする。現62% ③ 児童・生徒「交流が楽しい、世界が広がった」の肯定率を70%とする。新たなアンケート近隣の学校園と学校間交流を充実させる。合同授業を行う。
	2年め	<p>学校教育自己診断、授業アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 児童・生徒記入、保護者記入の「見てわかる授業の満足度」の肯定率を82%以上とする。 ② 教職員「ICT機器活用力」の肯定率を75%以上とする。 ③ 児童・生徒「交流が楽しい、世界が広がった」の肯定率を75%とする。国内の学校園、企業などとの共同授業・交流会を行う。

	3 年 め	<p>学校教育自己診断、授業アンケートより</p> <ul style="list-style-type: none">① 児童・生徒記入、保護者記入の「見てわかる授業の満足度」の肯定率を 85%以上とする。② 教職員「ICT 機器活用力」の肯定率を 80%以上とする。③ 児童・生徒「交流が楽しい、世界が広がった」の肯定率を 80%とする国内外の学校園と交流会を行う。SDGs や防災の取組み等を地域へ発信し、共に取組むコミュニティを形成する。
--	----------------------	---